

# 教育振興事業ダイジェスト

公益財団法人日本教育公務員弘済会岐阜支部が行う教育振興事業は、「最終受益者は子どもたち」という理念の下で進められています。前ページ・本ページでは「奨学事業」「特別学校助成事業」「学校研究助成事業」「へき地・複式学校教育支援事業」「奨励金助成事業」の実践の一部を紹介しています。

## ■ 給付奨学生：県立高校定時制・普通科男子 給付奨学金

現在18歳です。私は中学を卒業した際に、進学の道を選択せず就職を決めました。職場の方もよくしてくださり、業務内容もとても楽しかったです。ですが、時が経つにつれて段々と「自分はこのままで良いのだろうか?」と思うようになり、最終的には「もう一度勉強がしたい」と思い、令和4年度の12月をもって以前働いていた職場を退職し現在に至ります。

現在は昼はバイト、夜は学校という生活を送っています。体力的に厳しいと思う反面、将来の自分の為と思うとモチベーションが上がるのでなんとかやっています。

学校生活では友達もでき、勉強もできているので満足しています。入学当初は周りや年齢が離れていることもあり上手く馴染めるか不安でしたが、幸いにも同級生や他学年の生徒に恵まれて楽しく学校生活を送ることができています。

体力的にしんどいと感じるときもありますが、自分で決めたことなので卒業までまだまだ遠い道のりですが、頑張っただけでいいと思っています。

## ■ 郡上市立牛道小学校 特別学校助成

「たっぷりあそべるあたまがよくなるあそび絵本セット」「図書館版スクール鬼ごっこ」「新刊絵本セット」など、児童が仲間と一緒に楽しんで読める図書を助成していただきました。1年生体育の「鬼遊び」では、本を見ながらやってみよう鬼ごっこを決めました。雨の日の休み時間には、班の仲間と一緒にあそび絵本を見て仲を深めました。

図書館祭では、パズルやポイント制のミッション、おすすめの本の紹介を行い、読書に親しむ工夫をしています。

本校では1週間に3日朝読書の時間があり、落ち着いて読書に取り組む習慣を付けています。地域ボランティアの方を招いての読み聞かせも行っています。また、週末には、家庭読書の日「家読」を呼びかけ、家庭で読書に親しんでもらい、心の豊かさを育てていくようにしています。



## ■ 各務原市立緑陽中学校 学校研究助成

本校では、タブレットを使用した授業や生徒会活動を行っています。しかし、通級指導教室と日本語指導教室、体育館にはWifi環境が整備されておらず、タブレットを使用することができません。これらの場所にもWifi環境が必要であると考え、今回の助成でWifi環境を整えました。

本校には、外国籍生徒が8名在籍し、うち6名が日本語指導教室を利用しています。6名の日本語能力は同じではないため、日本語指導教室の担当教員は支援の工夫を模索していました。タブレットを使って一人一人に合った日本語学習ができるようになり、一人一人が日本語能力を身に付け、日本で生活していく力を身に付けるようになりました。



## ■ 垂井町立合原小学校 へき地・複式学校教育支援

本校では、地域人材から学ぶ機会を多く設けており、3年生では、地域で工房を持っている方と竹炭を使った作品づくりをしています。

昨年度まで、講師の方が竹や木の枝、松ぼっくり、木の実などを窯で炭にして、材料として持ってきてくださり、作品づくりをしていました。児童にとって、それでは竹などの材料が炭になる工程が実感できません。どのように窯に入れるのか、火をつけるとどのように燃え、温度はどのくらいになるのか、どれくらい時間がかかるのか。児童が講師の方の技術や苦労を実感できれば、地域よさや素晴らしさを感じ取ることができるのではないかと考えました。

そこで、今回助成いただいたビデオカメラで材料が炭になる過程を撮影し、作品づくりの前に児童に見せました。映像からは炭づくりの難しさや苦労を感じ取ることができ、作品作りへの意欲が高まりました。

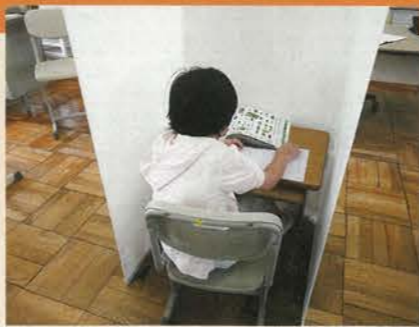


## ■ 美濃加茂市立太田小学校 学校研究助成

本校には、国際教室（外国人対応日本語指導通級教室）や特別支援通級教室、特別支援学級が設置されています。これらの児童には、教科の授業以外にも楽しくコミュニケーションしたり、心の安定を図ったりする場をつくるのが大切です。

国際教室では、今回助成の「なわとびボールセット」や「バランスボール」を使った活動を行い、外国人児童が遊びの中で習得した日本語を使うことができるようにしています。

特別支援通級教室や特別支援学級では、今回助成の「折りたたみシールド」を活用しています。3学年以上の児童が在籍する複式学級の特別支援学級では、個に応じて授業内容が大きく場合が多々ありますが、シールドを積極的に活用して各自の学習に専念できています。



## ■ 瑞浪市立瑞浪北中学校 学校研究助成

本校では、平成31年4月1日に旧瑞浪中学校、旧日吉中学校、旧釜戸中学校の3校が統合され誕生し、令和5年度で開校5周年を迎えています。

開校初年度からコロナ禍により合唱活動が制限されていたこともあり電子ピアノの活用機会もありませんでしたが、合唱活動再開に向けた準備をしている際に、クラス数に対して電子ピアノの台数不足が明らかになりました。今回弘済会より電子ピアノを助成いただきました。

朝の会、帰りの会等では、各教室において指揮者・伴奏者と合わせた練習、ピンポイントの反復練習を行っています。電子ピアノの配置は、生徒の感想に述べられているように伴奏者にとってもありがたいことでした。

「教室に電子ピアノが設置されたことで、合唱練習がない時にも個人で練習することができています。指揮者と合わせてタイミングやスピードを調整することにも少しずつ取り組んでいます。12月14日に行われる予定の合唱発表会は、私たちにとって最初で最後の合唱発表会です。その時に、自分たちが満足できる合唱を超えて、聴く人たちに自分たちが伝えたい思いが伝わる合唱を目指して取り組んでいきたいです。」（生徒の感想）



## ■ 高山市立北小学校 学校研究助成

子どもたちの感性を育むために、「ホンモノにふれさせること」を授業や学校生活の中で意図的に位置づけていますが、直接触れることができないことも少なくありません。そんな時、今回助成いただいたプロジェクターはその役割を担うことができる有効なツールでした。

5年生は高山警察署から講師を迎えて、SNSで犯罪に巻き込まれていく様子を鮮明な映像で視聴しました。SNSを利用する人が責任をもって返信しないことはいけないことを学習しました。学校では一人一台タブレットを用いて学習する時間が増え、家庭でもスマートフォンやタブレットの所持率が増えています。どの子もSNSの正しい使い方を身に付けておく必要があることを、子どもたち自身が実感し、学び取っていく大切な学習となりました。



## ■ 岐阜県立関有知高等学校 学校研究助成

本校では、生徒自身が本校を誇りに思い、教職員自身が本校での経験が今後のキャリアにつながる意識し、生徒も教職員もその特色や自慢を自分の言葉で語り出す姿を目指しています。そのため、生徒や教職員自身の日頃の言動から価値あるものを見つけ、それを言葉に変え、種として時き、花咲くまでじっくり育てる取り組みに着手しました。

職員会議での「キャッチコピー」づくりのグループワーク、生徒会の呼びかけによる生徒への募集と選考を経て、教員と生徒の協働による標語をつくりました。

標語1「青春 STEP UP! 関有知ブランド 笑顔満点! 関有知プライド」

標語2「姿で魅せる! 関有知ブランド 挨拶で心をつなぐ! 関有知プライド」

今回の助成を活用してこの標語入りの横断幕を作成し、5月の球技大会で披露し、その後長良川鉄道から見える東門に標語1を、地域住民や送迎する保護者から見える正門に標語2を設置しました。「横断幕」は、生徒や教職員が「関有知ブランド・プライド」を意識するのに、大きな役割を果たしています。



## ■ 岐阜県立長良特別支援学校 学校研究助成

本校では令和4年度より、校内でeスポーツ大会を行っています。幅広い実態の中、プログラミングロボットやVR、視線入力装置や外部スイッチ等を活用して取り組んでいます。この大会の優勝メダルを今回助成の3Dプリンタで作りました。以前生徒が描いたイラストを取り込み、それを立体化させ、本校のシンボルマークをメダルにしました。

また、物を作ることが好きな中学部の生徒は、3Dプリンタで製作する物のデザインをアプリを使用して作成しています。シンプルな図形を組み合わせて「けん玉」を作成しました。操作が慣れたら次は「ルービックキューブ」も作ってみたいと考えています。

自分の描いた物、データで作成した物が目の前でできあがっていくことは児童生徒には非常に面白く、興味をもって取り組みました。今後は主に図画工作や美術、自立活動の時間に活用していく予定です。



## ■ NPO法人 いわむら一斎塾 奨励金助成

「人づくり、心育てはまちづくり」を基本理念とするNPO法人いわむら一斎塾では、約10年前から岩邑小学校の「先人学習」「ふるさと学習」（いわむらプラン）に講師を派遣しています。

1年生では岩村の自然や歴史的建造物をなどを訪ねた町探検、2年生ではそれを深め、3年生では地域のまちづくりと岩村城の歴史や女城主について学び、4年生では環境学習と関連して岩村町出身の植物学者三好、5年生では地域文化学習と関連して下田歌子、6年生では地域歴史学習と関連して佐藤一斎を学んでいます。

5年生・6年生では、2人の先人（下田歌子・佐藤一斎）が活躍した江戸・東京の史跡、遺産などを今回助成のパソコンを活用してスライドで説明したり、実物の書籍や書軸を見せたり、校外に出て遺跡巡りをしたりしています。5年生は「下田歌子賞」への応募、6年生は「言志録～佐藤一斎まつり～」で「言志四録」の群読も披露しています。

